

あいさつでつなごう
地域のきずな

令和4年度(2022年) 活動方針(内容)が決まりました!

去る5月15日(日)やまびこネットワークの定期総会をコロナ禍のため加盟組織代表者1名に絞り開催しました。当日は、小紫市長様及び地域コミュニティ推進課課長梅谷様のご臨席のもと、終始和やかな雰囲気の中で討議が進み提案された原案が全て承認されました。

以下、承認された本年度の主な活動方針をお知らせいたします。

ニコニコあいさつデー

毎月8日を中心に実施します。詳しい日程は広報機関紙「こんにちわ:NO34」をご覧ください。加盟組織が統一して活動するのは毎月の「ニコニコあいさつデー」です。しかし、**「あいさつデー」は毎日です。又、あいさつ通りは教室です。**安心安全指導を最優先に子どもたちが登下校時に見つけた‘発見’に応じて上げて下さい。

農作業体験：さつまいも植え～「環境を考える：SDGs」学習

規約では「市子連」に加入している子ども会となっていますが、来年からはこの‘わく’を外します。**結成されていない自治会でもこれを機会に是非子ども会を組織してください。**(本年度は壱分町東子ども会が参加しました：本紙参照)

グラウンドゴルフ大会

グラウンドゴルフ愛好者中心の大会ではなく、幅広く初心者も楽しめる大会として、そして、**一打一打から確かなつながりを求めてまちづくりに寄与できる大会として実施します。**(日時等実施要項は後日)

まちづくりワークショップ～総合防災訓練&健康教室～

過去数年に亘って実施してきたやまびこネットワークの防災訓練や昨年実施された生駒市の訓練を検証しながら、本年度は**11月5日(土)「北淡震災記念公園」から‘震災語りべ’をお迎えし実施します。**

冬の子どもフェスタ

今までお世話になっていた長浜市余呉からの協力が難しくなったため、本年度は**姉妹都市「敦賀市」に雪の調達地を求めて現在交渉中(5/20現在)です。目下、交渉も順調に進み、令和5年2月5日(日)実施予定です。**

「SDGs探求学習」～落ち葉で秋を体感(落ち葉遊び)～

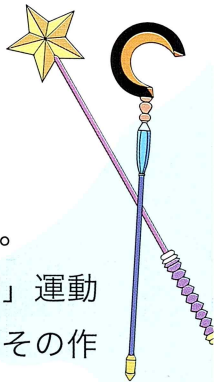
落ち葉の一生から地球環境を考える「SDGs探求学習」です。これを機会に「生駒市SDGsアクションネットワーク」に登録します。

その他

「機関紙：こんにちわ」の発行・「いこいこまつりへの参画・協力」等が承認されました。



あいさつのまほう



「壱分小学校児童会」は『あいさつ名人になろう』を目標に校内で活動を行っています。

当時運営委員であった中道楓子さん（現：中学1年生）が、その様子を「小さな親切」運動生駒支部が募集した作文コンクールに応募し、高学年の部で見事1位に選ばれました。その作文を、関係者の承諾を得て全文を紹介します。

あいさつのまほう

壱分小学校6年 中道 楓子

「おはようございます」は、みんなを笑顔にするまほうの言葉です。

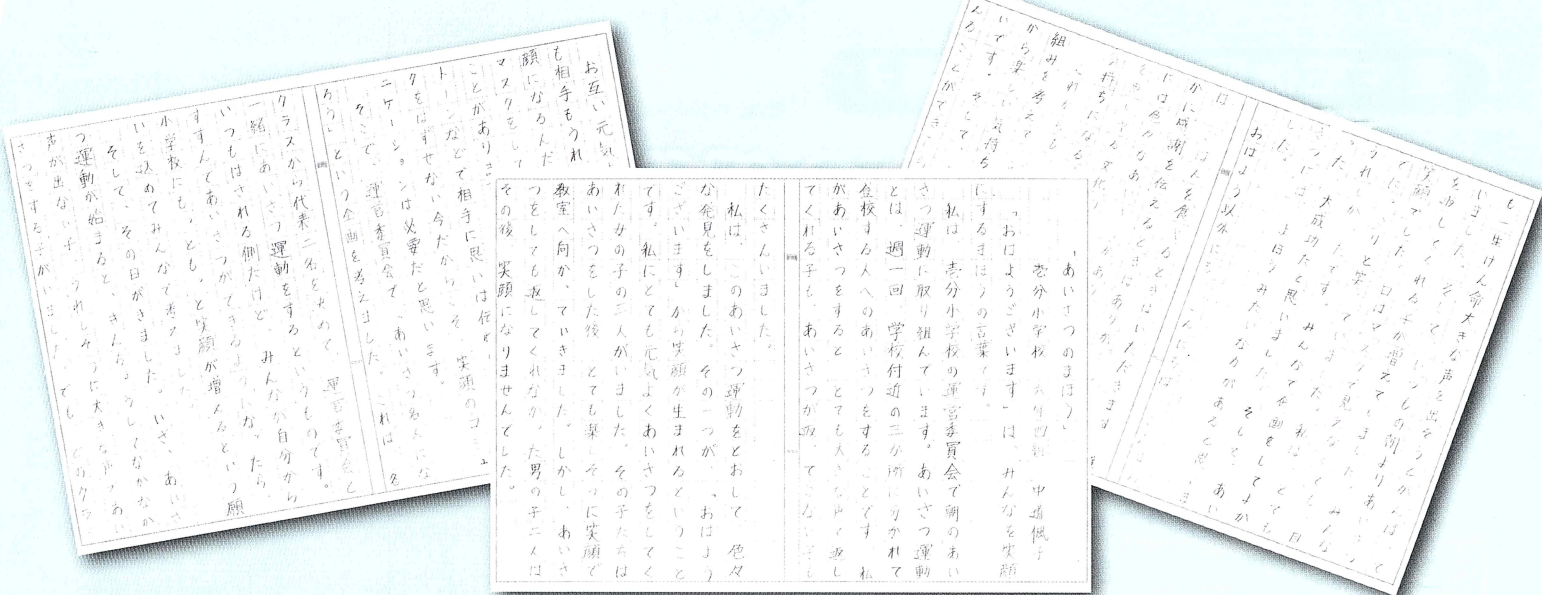
私は、壱分小学校の運営委員会で朝のあいさつ運動に取り組んでいます。あいさつ運動とは、週一回、学校付近の三か所に分かれて登校する人へのあいさつをすることです。私がいさつをすると、とても大きな声で返してくれる子も、あいさつが返ってこない子もたくさんいました。

私は、このあいさつ運動をとおして、色々な発見をしました。その一つが、「おはようございます」から笑顔が生まれるということです。私にとっても元気よくあいさつをしてくれた女の子の三人がいました。その子たちはあいさつをした後、とても楽しそうに笑顔で教室に向かっていきました。しかし、あいさつをしても返してくれなかった男の子二人はその後、笑顔になりませんでした。

お互いに元気よくあいさつをすることで、私も相手もうれしい気持ちになって、自然と笑顔になるんだと思いました。今は、コロナでマスクをしていて、人の表情が分かりにくいことがあります。でも、目や手の動き、声のトーンなどで相手に思いは伝わります。マスクをはずせない今だからこそ、笑顔のコミュニケーションは必要だと思います。

そこで、運営委員会で「あいさつ名人になろう」という企画を考えました。これは、各クラスから代表二名を決めて、運営委員会と一緒にあいさつ運動をするというものです。いつもはされる側だけど、みんなが自分からすすんであいさつができるよ





うになったら、小学校にもっともっと笑顔が増えるという願いを込めてみんなで考えました。

そして、その日がきました。いざ、あいさつ運動が始まると、きんちょうしてなかなか声が出ない子、うれしそうに大きな声であいさつをする子がいました。でも、どのクラスも一生けん命大きな声を出そうとがんばっていました。そして、いつもの朝よりあいさつを返してくれる子が増えていました。みんな笑顔でした。口はマスクで見えなくても、目でにっこりと笑っていました。私は、とてもうれしかったです。みんなで企画をしてよかった、大成功だと思いました。そして、あいさつには、まほうみたいな力があると思いました。

おはよう以外にも、こんにちは、こんばんは、ごはんを食べるときはいただきます。誰かに感謝を伝えるときはありがとうなど日本には色々なあいさつがあります。相手のことを思いやる文化の一つです。言われていやな気持ちになる人はいません。

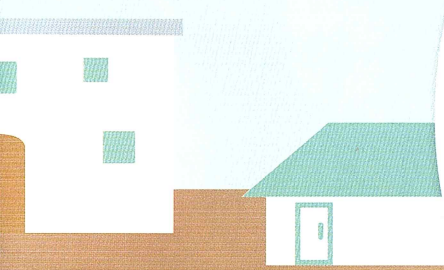
これからも、私ができるあいさつへの取り組みを考えて、小学校に登校したみんなが朝から楽しい気持ちになれるようにがんばりたいです。そして、このまほうを次の誰かに伝えることができたらいいなあと思いました。

「小さな親切」について

「小さな親切」運動は、昭和38年に当時の東大総長茅誠司先生らの提唱で生まれ、生駒市では昭和42年に生駒「小さな親切」の会として発足しました。「できる親切はみんなでしよう。それが社会の習慣となるように」がスローガンになっています。東京都に中央本部があり、各道府県に本部があります。

私たち「小さな親切」の会がモットーとしている10か条のひとつひとつは、いつも私たち、あなたがたが実行している事がらばかり。でも、ひとりひとりが実践するより、大勢が力を合わせた方

が、より大きな社会的効果を生みます。ささやかな1本のローソクの光も、たくさん集まればみことな輝きのハーモニーになるように…。今のような時代なればこそ、もっとローソクの火を大きくしなければならぬと思うのです。



農作業体験:さつまいも植え

～吉分町東子ども会が参加～



初夏を思わせるような暑い日(5月7日)、吉分町東子ども会が、「近畿大学農学部ならキャンパス・ものづくり村」の畑に、さつまいも(鳴門金時・紅あづま)の苗約100本を植えました。

当日は、農業法人ゲミューゼや近畿大学鶴田ゼミの学生さんがご協力下さいました。

到着すると、畑の片隅にはテントを張り、その下にビニールのシートを敷き詰めた‘野外教室’が出来上がっていました。準備して下さいました関係者に感謝・感謝!

早速、その教室でさつまいもに関わるお話や「クイズ」を楽しみ、そして、いよいよ慣れない手つきでさつまいも植え……そして、水やり……。

終了後は、持ってきた生ごみを埋めての‘生ごみ実験’……秋の収穫時にはどんな姿に変身しているやら…ご対面が楽しみです。

最後に、バスの提供を含め企画・立案して下さいましたかざぐるまの皆様をはじめ全ての関係者に厚く御礼申し上げます。

